

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号： 24601

研究種目： 若手研究（B）

研究期間： 2010～2011

課題番号： 22792271

研究課題名（和文） 施設高齢者の自律性評価尺度の開発

研究課題名（英文） Development of autonomy scale for older people in nursing home

研究代表者

松井 美帆（MATSUI MIHO）

奈良県立医科大学・医学部・教授

研究者番号： 60346559

研究成果の概要（和文）：

本研究では施設高齢者の自律性について他者評価による測定尺度を作成し、その信頼性と妥当性について検討を行った。介護老人保健施設2施設、介護老人福祉施設4施設において、便宜的サンプリングにより入所者129名を対象に、30項目5件法からなる尺度について、職員による聞き取りの質問紙調査を行った。項目分析では16項目で全回答、14項目で1名を除き回答がみられ欠損値はなく、天井効果、フロア効果も認められなかった。尺度全体のCronbach's α 係数は0.911であった。基準関連妥当性についてBarthel Indexとの関連は $r=.480$, $p<0.001$ と有意な相関が確認され、本尺度が施設高齢者の自律性を測定において、有用な尺度であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

This study developed autonomy scale for older people in nursing home, and examined reliability and validity of the scale. A convenience sample of 129 older adults in two intermediate nursing homes and 4 assisted nursing homes participated in this study. Staffs asked to them using a questionnaire including the scale of 30-items, 5 point Likert-type scale. No deficit items, ceiling effects, and floor effects were observed. The Cronbach's α was 0.911. The criterion based validity between the autonomy scale and Barthel Index significantly correlated ($r=.480$, $p<0.001$). These results suggested that the autonomy scale is useful to assess autonomy for older adults in nursing home.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011年度	1,300,000	390,000	1,690,000
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：自律性、高齢者、介護保険施設、尺度開発

1. 研究開始当初の背景

1) 高齢者の自律性について

自律性 (Autonomy) とはギリシャ語の *autos* (自己) と *nomos* (規則、統治、法律) を起源とし、そこから個人へと広がりを見せ、自治、自由の権利、プライバシー、個人の選択、意思の自由など多様な意味を得るようになった。自律性には心理学的に代理性、独立性、合理性の3つの要素があり、ある行為や決定が自律的であるかどうかはこれらの3つの要素が意思決定の際に行われているかにより、また独立性、合理性の程度の問題とされる。

欧米において、個人の自律性を尊重し、療養の場で患者が治療・ケアの意思決定を行うこと、意思決定が不可能となった時のために代理人を決めておくことは重要とされている。近年、わが国でも治療や検査に関する患者への説明が必要となり、医療における患者の自律性について注目がなされてきている。

このような中、医療・介護に関わることの多い高齢者を対象として、意思決定に困難を要する状況が散見されている。高齢者では施設入所により自律性が低下した結果、罹患率や死亡率が増加したとの報告がみられる。一方、自律性をサポートする施設方針は、高齢者の *well-being* を高め、サービスへの依存を減少し、社会活動への参加を促すとの報告 (Barkay, 2002) もあり、施設高齢者の日常生活における自立支援へ向けた自律性を評価することが重要である。

2) 自律性の測定尺度について

自律性の測定尺度については、米国において高齢者を対象に開発されたヘルツの

Perceived Enactment of autonomy (PEA) scale がある。PEA は3因子 Voluntariness、Individuality、Self-Direction、31項目からなり、信頼性 (Cronbach $\alpha = .88$)、構成概念妥当性 (PEA and perceived control; $r = .52$) が検証されている。申請者は、PEA 尺度の日本語版作成について原作者より許可を得、平成 19 年度ユニバーサル財団の助成によって、PEA 尺度日本語版の開発を行った。一般高齢者を対象に日本語版の信頼性 (Cronbach $\alpha = .93$)、構成概念妥当性 (PEA and Locus of Control : $r = .25$, $p < .01$) を検証し、現在、平成 20・21 年度科学研究費補助金 (若手研究 B) の助成を得て、介護予防サービス利用者の自律性に関する調査報告を作成している。

自律性の測定については適切な尺度が開発されていないこともあり PEA 尺度日本語版を用いて調査を行ったが、翻訳版であることからわが国の高齢者に適した内容妥当性の検討、質問紙への回答が難しい介護サービス利用者においては、他者評価尺度の必要性を感じた。よって、施設高齢者の自律性を測定するに当たっては、施設方針や自律性に影響する要因を考慮した上で、新たな評価尺度の開発が望まれる。

2. 研究の目的

本研究では、施設高齢者の自律性について他者評価による測定尺度を作成し、その信頼性と妥当性について検討を行った。

3. 研究の方法

1) 用語の定義

本研究において、施設高齢者とは介護老人福祉施設、介護老人保健施設に入所する高齢者をさすものとする。

2) 尺度原案作成のプロセス

施設高齢者の自律性評価尺度の構成概念について、ヘルツの Perceived Enactment of autonomy (PEA) scale の 3 因子 Voluntariness、Individuality、Self-Direction、また施設高齢者の自律性支援に関する予備的研究（田川，2005）を参考に組織特性に関する項目も含めた 30 項目からなる施設高齢者の自律性評価尺度を作成し、内容妥当性について検討を行った。次いで、高齢者施設の職員を対象として、質問項目の表現の妥当性の検討を行い、修正を行った。尺度の質問項目に対する回答は「非常に思う」から「全くそう思わない」の 5 件法で評定を定め、得点が高いほど自律性が高いことを意味するものとした。

3) 本調査

(1) 対象者

A、B 県内の介護老人保健施設 2 施設、介護老人福祉施設 4 施設において、便宜的サンプリングにより入所者 129 名を対象に、職員による聞き取り調査を行った。

(2) 質問紙の構成

質問紙の構成は、職員の年齢、性別、経験年数、入所者の基本属性として年齢、性別、障害老人の日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準、要介護度、入所期間、Barthel Index であった。

(3) データ収集方法

高齢者施設の管理者に研究目的、方法、研究依頼内容を文書及び口頭で説明を行った。承諾の得られた施設において、管理者又は研究者から職員を対象に研究目的、方法、研究依頼内容を文書及び口頭で説明を行い、文書または口頭で同意を得た。その後、管理者又職員から、入所者本人又は

家族に文書を用いて研究の依頼を行い、文書又は口頭で得られた入所者に対して、質問紙調査を行った。

4) 分析方法

(1) 項目分析

欠損値の頻度、天井およびフロア効果、項目間相関分析、I-T 分析、G-P 分析を行った。

(2) 妥当性の検討

基準関連妥当性については既存の関連尺度がないため高齢者の自律性に関連するといわれる日常生活自立度について Barthel Index との関連を求めた。

(3) 信頼性の検討

内的整合性を検討するために尺度全体について Cronbach's α 係数を求めた。さらに各下位尺度について Cronbach's α 係数の算出により内的整合性を検討した。

5) 倫理的配慮

本研究は奈良県立医科大学の医の倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

1) 対象者の属性

対象者の属性は平均年齢 86.9 \pm 7.6 歳、女性が 82.6%、平均要介護度は 3.06 \pm 1.2、Barthel Index は 47.1 \pm 28.5 であり、職員の平均年齢 40.2 \pm 9.8 歳、女性が 54.4%、経験年数は 13.8 \pm 5.6 年であった。

2) 項目分析

項目分析では 16 項目で全回答、14 項目で 1 名を除き回答がみられ欠損値はなく、天井効果、フロア効果も認められなかった。

G-P 分析では、30 項目の総得点について上位群と下位群で平均値を比較したところ、上位群で有意に高い得点が認められた

($p < 0.001$)。また、I-T 分析の結果、 $r = 0.4$ 以下の項目は認められなかった。

3) 信頼性・妥当性の検討

尺度全体のCronbach's α 係数は0.911であった。基準関連妥当性についてBarthel Indexとの関連は $r = 0.480$, $p < 0.001$ と有意な相関が確認され、本尺度が施設高齢者の自律性を測定において、有用な尺度であることが示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①松井美帆. 認知症グループホーム職員の死に対する態度. 臨床死生学, 査読有, 15(1), 2011, 50-55.
- ②嶋貫恵, 松井美帆. 介護支援専門員におけるがん末期のケアマネジメントと死生観. ホスピスケアと在宅ケア, 査読有, 19(1), 2011, 38-41.
- ③Miho Matsui. Effectiveness of end-of-life education among community-dwelling older adults. Nursing Ethics, 査読有, 17(3), 2010, 363-372.
- ④Miho Matsui, Kathryn Braun. Nurses' and care workers' attitudes toward death and caring for dying older adults in Japan. International Journal of Palliative Nursing, 査読有, 16(12), 2010, 593-598.

[学会発表] (計5件)

- ①Matsui Miho. Perceived Enactment of Autonomy Short version in Japanese Frail Elderly. Pacific Institute of Nursing Conference, 2012年3月28日, Honolulu, Hawaii.
- ②Matsui Miho, Shimanuki Megumi. Care managers' attitudes toward death and caring for dying community-dwelling adults. 2nd International

Nursing Research Congress of World Academy of Nursing Science. 2011年7月14日, Cancun, Mexico.

- ③Matsui Miho. Development of the Perceived Enactment of Autonomy Short version in Japanese. 22nd International Nursing Research Congress, 2011年7月11日, Cancun, Mexico.
 - ④Matsui Miho, Kathryn Braun. Nurses' and care workers' attitudes toward death and caring for dying older adults in long-term care setting. 63th Annual Scientific Meeting The Gerontological Society of America, 2010年11月22日, New Orleans.
 - ⑤Miho Matsui. Reliability and Construct Validity of the Perceived Enactment of Autonomy in Japanese Older Adults, 63th Annual Scientific Meeting The Gerontological Society of America, 2010年11月22日, New Orleans.
6. 研究組織
- (1) 研究代表者
松井 美帆 (MATSUI MIHO)
奈良県立医科大学・医学部・教授
研究者番号: 60346559
 - (2) 研究分担者
なし
 - (3) 連携研究者
なし